基地跡地利用計画の基本理念と基本方針について

利用計画における基本理念・基本方針（これらを踏襲して進める）

＜現行＞基地跡地利用計画

【基本理念１】まちの中心、シンボルとなること
↓
【基本方針１】基地跡地に残されている豊かな自然や、周辺に立地している公共施設の集積を活かして、市民のための新しい生活拠点（シビックコア）づくりを目指す。

【基本理念２】豊かな地域資源を活かし、かつ、歴史を伝える
↓
【基本方針２】朝霞市の原風景ともいえる武蔵野の樹林や、基地の歴史を記憶させるプラタナスの並木など貴重な地域資源の保全・継承を目指す。

【基本理念３】周辺の公共施設との連携及び、公共施設の有効活用に配慮すること
↓
【基本方針３】市民のための新しい生活拠点の形成に向けて、基地跡地に導入する機能と周辺に立地している公共施設の持つ機能の有機的連携を図る。

【基本理念４】16.4ha を中核とする経済・財政の面で実現性の高い計画を目指すこと
↓
【基本方針４】最大規模の 16.4ha の敷地の一部を事業ゾーンとして利用することも視野に入れて、市にとって財政負担の少ない土地利用を目指す。

【基本コンセプト】
周辺の公共施設と連携し、緑に囲まれた
市民のための"憩いと交流の拠点"

＋

委員意見の集約から抜粋（意見の詳細は、省略）

委員の意見から キーワードを抽出

【キーワード】
①シンボル
②まちの中心
③担うべき機能
④空間イメージ

【キーワード】
①次の世代に引き継ぐべきもの
②豊かな地域資源を活かす
③基地跡地の規模を活かす

【キーワード】
①基地跡地の利用に併せた、周辺の公共施設の利用・活動の見直し・拡充
②行政施策との有機的な結合
③事業用地に市庁舎等を一体化、新たな拠点
④相互に公共施設を連携させ、勉強、研究の場として利用
⑤各公共施設が基地跡地を「前庭」として繋がり合う利用が必要

【キーワード】
①広く朝霞市民、市域外に利用してもらう
②市民にとって価値のある空間の実現
③市民の理解が得られる空間利用に対する重点投資
④民間資金、民間活力の導入
⑤収益性を生む新たな施設、イベントの導入
⑥都市経営的視点が必要
⑦コスト縮減

市民の利用　＋　広く市外から利用　＋　将来に向けて活かし引継ぐ資産

利用計画を見直すに当たっての（計画）方針［≒視点、着眼点］

計画の見直し方針

【計画方針１】"次の朝霞づくり"のためのシンボルとなる拠点づくり

（ポイント）
①"次の朝霞づくり"のために必要とされる機能
②基地跡地で展開する営み・活動

【計画方針２】豊かな自然・地域資源と歴史を受け継ぎ、そこに市民の想いを籠めて次の世代に継承

（ポイント）
①受け継ぐべき自然・地域資源、歴史
③そこに籠めるべき、現在の市民の思い
③引き継ぐに際しての留意点

【計画方針３】周辺の公共施設との連携、有効活用による多彩な魅力と価値の創造

（ポイント）
①周辺の公共施設と一体化することで生み出される新たな魅力と価値
②新たな活動、付加価値型の活動

【計画方針４】市民の願いとなる実現可能な計画づくり

（ポイント）
①財政的に投資可能なプログラム
②経費捻出のプログラムの想定

計画方針を踏まえて、見直した後の利用計画における基本理念・基本方針（基本理念は変えずに、方針を修正）

＜改訂＞基地跡地利用計画（事務局まとめ）

【基本理念１】まちの中心、シンボルとなること
↓
【基本方針１】基地跡地に遺されている緑豊かな自然や、周辺に立地している公共施設、さらにはその立地を活かし、"次の朝霞づくりのための拠点"の形成を目指す。また、"次の朝霞"のシンボルとしての役割を担う。

【基本理念２】豊かな地域資源を活かし、かつ、歴史を伝える
↓
【基本方針２】朝霞の原風景ともいえる武蔵野の樹林、人の手の入らいないことで形成された特徴的な樹林、基地利用の歴史などの地域資源を受け継ぎ、そこに現在を生きる市民の想いを籠めて、次の世代に引き継ぐ。

【基本理念３】周辺の公共施設との連携及び、公共施設の有効活用に配慮すること
↓
【基本方針３】周辺の公共施設と、基地跡地に導入する機能との有機的連携関係の創出により、多彩な魅力と価値を創造する。

【基本理念４】16.4ha を中核とする経済・財政の面で実現性の高い計画を目指すこと
↓
【基本方針４】その実現が市民の願いとなり、かつ実現可能な計画となること。

【基本コンセプト】
周辺の公共施設と連携し、緑に囲まれた
"次の朝霞"のための"憩いと交流の拠点"